縣社松原神社神司亀山雲平
縣社松原八幡神社社掌之印
縣社新田兵主神社神司亀山雲平
延喜式所載西部社司社掌監理分局
延喜式所載西部社司社掌兵主神亀山雲平
堺路市鎮座郡神職監理分局長亀山雲平
延喜式所載西部社司社掌亀山雲平

一 白濱村松原神社縣社格加列賀筵祝文

謹デ惟フ吾ガ松原神社八幡大神ノ威德夙ニ天平宝字ニ著ハレ　列聖ノ崇敬セラルヽ所ハ記傳觀ルベク古宝器証スベシ而メ足利氏以降歴代武門亦其餘風ヲ仰ギ各々神地ノ獻アリ既ニメ明治ノ中興殊ニ神祇ヲ崇敬セラレ吾ガ社モ亦鄕社ニ列セラレ雲平政則等ノ諭劣乏ヲ社職ニ承クルヿ亦此ニ數年ニ及ベリ何ゾ圖ラン社運ノ旺盛日ニ就リ月ニ將ミテ今也更ニ縣社ニ列セラルヽヿヲ得ントハ此レ固ヨリ大神ノ威德官家ノ敬意ニ出ヅト雖モ亦社民諸君赤誠協力ノ致ス所ニアラズヤ然リ而メ雲平政則等モ亦其餘榮ヲ受クルヿヲ得タリ亦何ゾ幸ヒノ甚シキヤ是ニ於テ乎將サニ神恩ノ万分ニ奉答シ弁セテ諸君ノ赤誠協力ヲ謝セントス是ヲ以テ爰ニ佳辰ヲトシ聊カ祝筵ヲ開ヒテ以テ其嘉慶ヲ同フス唯願フ諸君杯盤ノ薄キヲ舍テヽ衷情ノ厚キヲ取リ爰ニ斟ミ爰ニ醉ヒ爰ニ歌ヒ爰ニ舞ヒ以テ今日ノ喜樂ヲ盡シ更ニ不日ノ祭事ヲ全フセンヿヲ冀メ然ラバ則チ大神ノ霊モ亦必ズ此ニ降監アラン亦雲平政則等ノ大幸也旦ツ夫レ諸君ト已ニ協心戮力ヲ以テ此擧ヲ始ム亦必ズ協心戮力ヲ以テ此擧ヲ終ヘントス古人云フ同氣相求ムト嗚呼此擧ノ謂ヒ乎又云フ既ニ醉フニ酒ヲ以テシ既ニ飽クニ德ヲ以テスト嗚乎此筵ノ謂ヒ乎諸君其亦之ヲ諒セヨ

明治十四年四月二十七日

祠官龜山雲平祠掌谷政則等拜

四 観海講堂開業式祝文　答諸彦

明治ノ聖世ニ際シ奎星ノ文運ニ會シ苟モ神州ノ赤子タル者葵藿日ニ傾キ孝烏親ニ哺スルノ忱以テ煦育萬分ノ息ニ報ゼザル可ケン哉此レ有志諸君ノ其心ヲ誠實ニシ其盟ヲ金石ニシ此講堂ノ設アル所以ナリ雲也一日ノ長ヲ以テ叨リニ師儒ノ闕ニ補シ此講堂ニ主タルヲ以テ何ヲ以テカ其盛意ニ答ヘンヤ古聖謂ユル憤ヲ發シ食ヲ忘レ終日乾々ナル者以テ期ス可キノミ果メ然ラバ則チ諸君ト共ニ神聖ノ大道ニ由リ洙泗ノ正流ヲ斟ミ時ニ手ヲ文林ニ携ヘ或ハ筆ヲ詩壇ニ揮ヒ風流篤行彼此相濟ヒ長短相成シ以テ國家一旦ノ用ヲ待ツ此レ乃チ此堂ノ設ケアル所以ニメ而シテ雲ノ以テ諸君ニ報ズル所モ亦此ニ外ナラザル也此レ獨リ諸君ニ報ズルノミニ非ズ乃チ以テ國家万分ノ息ニ報ズル所ナリ乃チ以テ神州赤子ノ分ヲ盡ス所ナリ謹デ奉答ス明治十七年十月一日辱知亀山雲平拜

白濱警察分署新築落成式祝文

飾東ノ郡白濱ノ里ハ乃チ播磨ノ南陲ニメ而メ兵庫縣廳ノ管轄ニ係ル爰ニ佳域ヲトシ新タニ一署ヲ設ク乃チ姫路警察署ノ分署タリ土木功ヲ竣ヘ裝飾亦成ル二署ノ長官主幹ノ任ヲ以テ里中委員ト相謀リ此日ヲ以テ落成ノ佳典ヲ擧ゲラル是ニ於テ乎令公閣下各職諸君此ニ親臨セラレ此經營ニ關スル里中諸子モ亦此筵ニ在リ以テ此署ノ新成ヲ賀ス獨リ此署ノ新成ヲ賀スルノミナラズ即チ以テ庶民將來ノ幸福ヲ賀スル所也不肖雲平此里ニ奉祠シ此署ノ管護ヲ受ル亦已ニ久シ曩キヤ鼠竊狗盜ノ患少カラズ今ハ則チ一犬ノ夜吠ヲ聞カス枕ヲ高フメ曉ニ及ブヲ得然リ而メ一言ノ以テ之ヲ祝スル無キ可ナランヤ抑モ此署ノ管轄十三村ノ廣キ中ニ就テ吾ガ神社ニ屬スル村落亦二千六百餘戶一萬千餘人皆吾ガ神社ノ一家義兄弟ニ同ジ然リ而メ何ツ能ク過誤違警ノ民ナカラン況ヤ法網ニ罹ル者亦少カラザルヲ乎此ニ由リ之ヲ覩レバ此署諸君ノ勞亦甚ダ大ニメ而メ吾ガ神社ノ深ク耻ル所也蓋シ此署ヤ違警ヲ行事ニ防ク即チ法律ノ部分吾ガ社ヤ之ヲ念慮ニ戒ム猶ホ教育ノ範圍ナリ苟モ吾社ヲ拜スルノ民ヲメ匹大匹婦ノ微ト雖モ必ズ善ニ從リ過ヲ改ムルノ心ヲ生ジ以テ鄉曲善良ノ民タラシメ漸次ニ之ヲ擴充スレハ則チ此署億分ノ一勞ヲ省クニチカキカ此レ吾社ノ以テ此署ニ報ズル所也亦以テ此縣ニ此郡ニ報ズル所也松原神社祠官龜山雲平謹デ今日ノ佳典ヲ祝ス明治十七年十一月二十八日也

○白濱村戸長役場新築開場祝文

本村執務ノ場舎新タニ成リ此日ヲ以テ開場式ノ擧行アリ 衆生等亦其佳招ヲ辱シ叨リニ各位諸君ノ後ニ陪ス 鄙心竊カニ喜フ所アリ今ヨリ以往村務ノ朝ニ山積スルモタニ氷解スルヿ知ルベキナリ蓋シ人ノ精神其居ノ良否ニ從テ以テ増損ス今此清明ノ良場ニ臨ミ一層ノ精神ヲ發揚シ以テ百端ノ劇務ヲ處セバ事留滞ナク官民兩ナカラ利アリ其一層ノ精神ヲ發揚スルハ則チ謂ハユル居ハ氣ヲ移シ養ハ躰ヲ移ス者乎亦以テ此場舎ヲ祝スベシ此場舎ノ成ル民之ヲ悦ブ亦宜ナラス乎

明治二十年七月十五日 龜山雲平 谷政則 等拜

㊂ 粟生尋常小學校開校祝文

良校新タニ成ル區内諸彦ノ勵精欽スルニ堪タリ絃誦爰ニ起ル校弟諸子ノ敬業思フベシ此盛式ニ陪ス情多ク才短シ何ヲ以テ鄙言ヲ呈セン彼ノ聖訓ヲ思フニ理至リ義盡ク聊カ以テ祝詞ニ綴ル誨テ倦マザルハ此校教員諸君ニ於テ乎之ヲ保ツ學デ而メ厭ハザルハ此校諸弟子其レ之ヲ勉メザル可ケン哉斐然ノ章郁々ノ文其成功ノ美ニメ且ツ速カナルヿハ足ヲ翹テ待ツベキナリ明治二十年七月十五日亀山雲平谷政則等拜

栗生尋常小學校新築碑記

此校也在播磨加師東白濱村而其區也係第七學區
蓋校名之設各郡各區以維持乃尋常法此地古生
松如栗故稱栗生松原是此校名所起也明治中興
學令既下迺權設校名二據其一在村之西部其二
在村之中部名以散子弟然其制狹隘不能容衆校
業者以爲遺憾今茲丁亥春區中諸彥相議欲
新築一校舍資財亦有所計畫議乃決時方三月也
遂請 宮卜地遷其在西部者以爲村長新務之場就
其舊址以起此校是爲尋常小學校其在中部者改舊
是爲簡易小學校尋常簡易之稱亦從學令也其起
卯也 本郡長渡邊君監臨其事區中諸彥分課督
其役木石速聚人丁能力至七月其功全竣巍然爲一良
校矣以是月十五日與開校之典會者一百數十人各有祝
詞以頌校舍之新成於今月望敬毓之成績於他日
如出於一人心之汲汲於斯文亦可以知也 同胞稱惟此校
之設蓋臨風導則固有屬郡衙而其維持方略則有
區員諸彥之在焉其籌材責任則有散員諸君之在
焉而所分出入此校尊師親交以正其心勤其業以外以事
父兄外以奉長上以待國家一旦之用者將子弟之任也
古人云學校者王政之本致治之盛衰視其學之興廢
由此觀之諸君諸彥之於此校也此校之興廢此校之興
廢則關於政治之盛衰可不戒懼歟 雲也辱在今
日之賓後欲此校之興拙也並秀且壽也因記其概
如此若其詳則更待其人亦爲晚也

明治二十年 月 日

節字雲平謹撰

粟生尋常小学校新築畧記

此の校たるや、播州飾東の白浜村に在りて、其の区たるや第七学区に係かる。けだし校舎の設けは各部各区の維持を以ってすなわち常法となす。此の地いにしえ松の生うること粟の如し。故に粟生の松原と称す。是れ此の校名の起こる所也明治中興学令既に下り、権営（仮建築の）校舎二棟ありて、其の一つは村の西部に在り、其の二は村の中部に在りて、各々教うる子弟を以て其の制に然らしむれども、狭隘にして、衆を容れて授業する能はざるを遺憾とせり。今茲（ことし）丁亥（ひのといの年－明治二十年）の春区中の諸彦相議し一校舎を新築せんと欲す。資材は有に応じ、計画する所の議すなわち決す。時方に三月なり。遂に宮に請いて地を卜し、其れに遷る。西部に在るものは村長執務の場たるを以て其の旧址に就き、以って此の校を起こす。是れを尋常小学校となす。其の中部にあるものは、旧に依って、是れを簡易小学校尋常簡易の称、亦た学令に従うなり。其の起こり切なり。

本郡長渡辺君その事を鑒臨し、区中の諸彦課を励し、其の役（えき）を督し、木石は速聚し、人丁は能く力む。七月に至り其の功全竣し、巍然として一良校となる。其の月十五日を以って開校の典を挙ぐ。会するもの一百数十人各　祝詞あり以って校舎の新成を賀し、今日に於ては教育の成績を望み、他日に於ては、一日人心の汲々たるより出ずるが如し。斯れにおいては又亦以て知るべきなり。

同じく窃かに惟うに、此の校鑑臨風導は則ちもと郡衙に属するあり。而して其の維持の方署は則ち区員諸彦のある有り。其の育材の責任は即ち職員諸君にある有り。而して昕夕（きんせき）此の校に出入せば、師親を尊び、又又其の心を正すを以てその業に勤め内外父兄に事うるを以て、外長上を奉ずるを以って、国家一旦の用を待つ者は郡子弟の任なり。

古人云う、学校は王政の本にして政治の盛衰は其学の興廃に視らる。此の校の興廃は則ち政治の盛衰に関す。戒懼せざりて浚（ふか）く欲するは、此の校の与りて、松色並秀且つ寿ならんことなり。若し其れ詳（くわし）くは、更に其の人因って其の概ねを記すること此の如しを待つこととし、未だ晩（おわり）となさず。

明治二十年七月十五日

節宇雲平謹撰

陳鄙情操祝文

鄙字龜山先生者博學君子神之教導而移東縣社之神皆也蓋吾四方聞先生之高德敬而者多矣先生之寓正莊社復其家雖不甚懷之家貧之學徒常恨飲私熟之設是吾長軍弟兄以人若干加之吾生義數諸名十有餘名屬首唱吾多而之賢金謀新築熟食雖我乎而頗不少故首唱者東之兩弟廣和有志者之助成遂得竣其功焉是先之陰德之所致也本月行軍熟式先豫自擇熟石獅觀海龍地洛夏前面海有松樹有井林隔市廛僅步與栗生接隣乎鄙者皆分署於此生徒皆恰如巴字似鼎足而留縣之碑章已揭巴敬吟而信置形狀隔神而云遍五對方圖遍巴敬之形態是神之所尊欲果然則吾熟之又乎崇山靈之宜護長垂不朽而勉

明治十有七年第次甲申十月初一日

新橋藤原謹情

跋

右行軍樓圖三卷今茲甲寅春正月墨虜之役吾邱兵共隊奉

幕旨戍佃略狹砲洲之圖也行止有法旗鼓整肅某為士大將某為指使某為使士某為用付以五槍士銃卒細大不遺歷歷可觀矣此役也公在邸憂思不措教遣使存問恩威並至而士皆樂為之用無復生意之心暨終役公猶不忍忘之遂命梓野氷秀圖之昕夕覽觀以成巡三軍指揮士卒之想而苟上此圖者亦皆不隨昌矢石敵王愾之心則可謂君臣兩得矣且夫國家益多事哀哉亦已覩浪華而吾藩又有家寫宮奥諸役則亦可以繼此圖者乎雖然徒供覽觀以為誇示佗人之具則固不若無作也嗚乎後之觀者其勿玩物視之

嘉永七年甲寅冬十月下澣

臣 龜山 美和頓首撰

題戍兵給粮營圖後

鉄砲洲之役箕浦軍卒為賄奉行兼領作營事賄奉行者給粮食之職也軍卒有吏幹坐而頤使徒卒如隣使指飲殮立辦數百將士皆得以時飽也營設二門自左門入自右門出積米若干石量口而炊二竈三坐架以大釜而以竹籠盛米并篭而下釜中湯沸而飯熟乾為方飯二幾箇致幾斤以給諸營而其授受出給驗以防濫竊報告出以擊柝為號以至汲水吹火瑣事亦皆有法焉及軍罷軍卒自作圖以傳家欲俾児孫追思父祖之勤労然而謬辱

公之一瞞

公遂使狩野永秀依様写之先是

公已命永秀作行軍圖三卷親序之及此圖成又副之其後以供覧觀則

公之能容物如海而軍卒之栄亦大矣豈

唐使児孫追思之哉

安政紀元甲寅冬十二月念二日

臣亀山美和庵　敬撰